

平成 26 年度 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成)

委員会名	厚生委員会
参加委員	土屋勝浩 小林隆利 林 和明 成瀬 拓 土屋陽一 佐藤清正 池上喜美子

委員長、副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

子育て中の親の不安や負担を軽減し、社会全体で支えていく子育て支援は重要な課題である。上田市では、中央子育て支援センター親子広場「にじいろひろば」をはじめとする 7 つの子育て支援センターの更なる充実を模索していきたい。特に、開館時間を含めて、施設内の遊び場の状況を視察した。

2 実施概要

実施日時	視察先	鹿児島県 鹿児島市
平成 26 年 7 月 23 日 午後 2 時 30 分 ~ 午後 4 時	担当部局	健康福祉局子育て支援部 子育て支援推進課交流係
視察事業名	すこやか子育て交流館 (愛称: りぼんかん)	
報告内容	<p>1 視察先の概要 人口約 60 万人の県都。南九州の拠点都市で、政治・経済・文化・交通の中心地。九州新幹線の完全開業により更なる発展が期待される。</p> <p>2 視察先の特徴 親子の集い、交流の場の提供、子育てに関する相談の充実など、子育て家庭や子育て支援等の活動を総合的に支援する拠点施設。「ひろがる笑顔、支え合う子育て」をキーワードに、親子が気軽に集い、相互に交流する場を提供するとともに、育児相談や子供の一時預かり、子育てに関連する情報の発信や関係団体との連携・情報の共有化を行い、地域の子育て支援機能のさらなる充実を図っている。</p> <p>3 視察事項について 施設の概要 (1) 名称 鹿児島市すこやか子育て交流館 (愛称: りぼんかん) (2) 設置場所 鹿児島市与次郎 1-10-17 (3) 供用開始 平成 22 年 10 月 9 日 (4) 建物の構造 本館 5 階建て 別館 1 階建て (5) 敷地面積 7,515.73 m² (6) 駐車台数 113 台</p>	

休館日、開館時間

(1) 休館日 毎月月曜日及び年末年始

(2) 開館時間

午前 10 時～午後 6 時

施設の利用者

(1) 小学校 3 年生までの者及びその家族

(2) 妊娠中の者及びその者に同伴する者

(3) 子育て支援に係る活動を行う者

(4) 子育てに係る相談等を希望する者

主な機能

(1) つどい・ふれあう・交流する

・子育て中の親と子が集い、触れ合う場を提供。

(2) 遊び・学び・体験する

・天候に左右されず、思いっきり体を動かして遊べる場の提供

・遊びの中で学び、家庭ではできないことを体験できる機会

・子育て中の親もともに考え、学ぶ機会の提供

(3) 子育て相談・援助

・子育てに関する相談や子育て支援の施策により親の支援

・子どもの一時的預かりを実施

(4) 子育てネットワークづくり

・子育てグループの支援、育成、組織化の促進

・子育て支援施策や関係機関と連携し、社会全体で子育て支援

・情報コーナーやホームページ等により子育ての情報発信

実施事業

(1) 講座、イベント、交流事業

・りぼんかんフェスタ、夏祭り、家庭週間事業

・工作、親子料理、離乳食講座、赤ちゃんふれあい、リズム体操

(2) 相談事業

・子育て相談、専門相談（ことば、こころ、マンマ、育ち）

(3) 一時預かり

・対象：生後 2 か月から小学校就学前の子ども

・預かり時間：午前 10 時～午後 5 時 30 分

・使用料：一人当たり一時間 500 円（二人目以降半額）



施設は桜島を臨む海沿いに立地



屋内の砂場

	<p>(4) 子育て支援ネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て支援施設や関係団体等の連携 ・ 子育て情報の一元管理と効果的な提供 ・ 子育て団体等の育成、支援 <p>利用状況</p> <p>(1) 来館者 平成 25 年度 150,284 人 施設内には親子で遊べる広場がある 一日平均 433 人</p> <p>(2) 相談件数 平成 25 年度 2,098 人</p> <p>(3) 一時預かり件数 平成 25 年度 2,634 人</p> <p>事業費</p> <p>(1) 改修事業費 約 3 億 9 千万円</p> <p>(2) 管理運営費 平成 26 年度予算 約 8 千 2 百万円</p> <p>(3) 事業費 平成 26 年度予算 約 2 百万円</p> <p>組織体制</p> <p>(1) 健康福祉局子育て支援部子育て支援推進課交流係</p> <p>(2) 職員体制 市職員 4 名 嘱託職員 企画運営指導員 4 名 子育て支援員 14 名</p> <p>建設の経緯</p> <p>* 市長公約として、総合計画に凝りこまれ建設に至る。</p> <p>* 鹿児島市の旧職員厚生施設を活用した。</p> <p>+ この「りぼんかん」の他にも、北部地域と南部地域に親子つどいの広場が設置されている</p> <p>課題</p> <p>(1) 子育て支援ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「りぼんかん」を核として子育て支援施設や団体、関係機関とのネットワークの構築を更に目指す。効果的な情報発信を行い、様々な主体による子育て支援の仕組みをより一層充実させ整える。
<p>考 察</p> <p>(まとめ: 市政に活かせると思われる事項等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視察当日は、夏休みであり、男親も含めて多くの家族連れの皆さんが楽しんでいました。 ・ 室内での様々な遊びの施設は充実していた。安全で衛生的な砂遊びができるスペースは室内にあって参考になる。また、1 年中温水を活用した「じゃぶじゃぶひろば」は、旧温泉施設ということもあり充実していた。安心して遊べる内容で参考になる。 ・ 開館時間が、午後 6 時までであり、また、休館日が少ない。上田市の中央子育て支援センター親子広場「にじいろひろば」をはじめとする 7 つの子育て支援センターでもこの件が対応できるかどうか提言していきたい。



施設内には親子で遊べる広場がある

視察先の写真、資料等がある場合は添付のこと

平成 26 年度 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成)


委員会名	厚生委員会			
参加委員	土屋勝浩 土屋陽一	小林隆利 佐藤清正	林 和明 池上喜美子	成瀬 拓

委員長、 副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

自殺が深刻な社会問題となっている中、市においても「こころの相談」を始め多様なチャンネルを設け相談体制をとってはいるが、平成 24 年度においても 36 名の自殺があり、対策の見直しが必要と思われることから、先進的取り組みにより成果を上げている久留米市を視察し、市の施策に反映すべき取り組みを研修する。

2 実施概要

実施日時	視察先	福岡県 久留米市
平成 26 年 7 月 24 日 午前 9 時 50 分 ~ 11 時 45 分	担当部局	久留米市保健所 保健予防課精神保健チーム
視察事業名	久留米市の自殺対策（久留米方式） ～自殺のないまちをめざして～	
報告内容	<p>1 視察先の概要 久留米市は、30 万人余人口を擁し福岡県内で第 3 位の中心的都市で、平成 20 年には中核市に移行している。産業においてはブリジストンに代表されるゴムメーカーや自動車部品製造工場等が集積する地域となっている。また農業においても椿やつつじの苗木の出荷数は日本一であり、筑後川沿いに発達した清酒製造業は全国第 3 位の製造場数を誇っている。</p>  <p>市庁舎の近くには久留米大学病院がある</p> <p>2 視察先の特徴 かかりつけ医と精神科医の連携システムを全国に先駆けて構築した実績として成果を上げている「久留米方式」と言われる取り組みに特徴がある。</p>	

3 視察事項について

(1)久留米市の自殺の現状

自殺者は年間 60 人から 80 人で推移してきた。特に平成 10 年には 100 人を超える自殺者が出たが、下請け企業の倒産が相次ぎ 120 件も有ったことが要因とも考えられている。

男女比では 7 : 3 の割合で男性が多く、年代別では、50 歳代、40 歳代、60 歳代と多く、全国的傾向と比べると若い世代が多いと言う特徴がある。

(2)久留米市の自殺対策

平成 20 年に中核市に移行したことから保健所が設置された。自殺対策事業として 普及啓発事業 ネットワークづくり 人材養成 自殺遺族支援の 4 つの柱を市の中期ビジョンに位置づけ取り込んできている。特にゲートキーパー養成講座は、中学校区で開催する等大変きめ細やかに開催し、リボンバッジを配布する等、ゲートキーパーとしての自覚を促し市民の中に自主的で組織的な活動を生み出している。

また、一番注目されているのは「かかりつけ医」と「精神科医」の連携をシステム化し、しかもその連携がきちんと図れているか検証し指導する仕組み、いわゆる「久留米方式」が確立されている点にある。具体的には医師会から派遣された精神保健福祉士が連携推進員として、精神科の受診に至らなかった患者のかかりつけ医に対して聴き取り調査等を行なうなど徹底して精神科医との連携を推進しきている。

久留米市では更に平成 23 年度にWHOのセーフコミュニティの国際基準を取得し、行政全般に予防を第一に据えた安心安全への取り組みを職員一丸となって取り組んでいる。その結果として、対策前 5 年間平均と対策後 5 年間平均の比較において、自殺者数において 5 人、自殺死亡率において 1.5 ポイントの減少がみられ、平成 25 年度の自殺死亡率は 20.1 と成果が具体的に表れている。



「久留米方式」は報道でも注目されている

考 察

(まとめ:市政に活かせると思われる事項等)

上田市の自殺対策については、平成 24 年度に策定された第二次上田市民総合健康づくり計画（平成 25 年度から平成 29 年度の 5 力年計画）に示されているところであるが、現状年間 38 人、自殺死亡率 23.9/10 万人に対し目標値を 10%以上の減少としている。施策の展開においては、「お互いに見守り支え合う地域支援、環境づくり」とし、8 項目の取り組みを掲げているが、久留米市の取り組みからみると具体性に欠け、取り組みの統括体制がとれていないことが明白である。上田市では保健所機能を持っていないことから、取り組みに限界はあると思うが、次の 2 点についての取り組みを提言したい。

1 人材養成

- ・ゲートキーパー養成講座を地域ごとに開催し受講者にリボンバッジを配布する。:地域に浸透した目に見える形での人材育成で成果につなげる必要がある。
- ・市職員の相談能力向上研修:職員には市民の命を守るセーフティネットとしての役割が有ると強く認識することが必要。

2 連携システムの構築

- ・かかりつけ医と精神科医の連携を図りやすくするための具体的システムの構築:久留米市へは フローチャート（不眠を訴える患者さんが受診したら） 診療情報提供書 かかりつけ医 - 精神科医連携報告書を医師会が中心となって作成し管内医療機関の協力を得ている。保健所機能の無い上田市では難しさもあるが、県とも協議する必要がある。



視察先の写真、資料等がある場合は添付のこと

平成26年度 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成)

委員会名	厚生委員会
参加委員	土屋勝浩 小林隆利 池上喜美子 佐藤清正 土屋陽一 成瀬拓 林和明

委員長、副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

1 保育士確保と若手離職防止の取り組みについて

全国的に保育士不足が社会問題となり、上田市においても保育士の確保が重大な課題となっている。保育資格を持っているが、保育士にならないということが多く深刻な問題である。

このような状況の中、福岡市は、保育士の安定的な人材の確保を図るため、「保育士・保育所支援センター」を開設し、保育士不足解消に向けた取り組みを行っている。これを視察し、上田市の保育士確保対策の提言をしていくための参考としたい。

2 実施概要

実施日時	視察先	福岡県 福岡市
平成26年7月25日 午前9時半～午前11時	担当部局	こども未来局子育て支援部 ・保育所指導課 ・保育課
視察事業名	保育士・保育所支援センター	
報告内容	<p>1 視察先の概要 福岡市は、九州の北部にある福岡県の西部に位置する人口約150万の都市である。福岡県の県庁所在地であり、政令指定都市に指定されており、九州地方における政治経済の中心地である。</p> <p>2 視察先の特徴 福岡市は、25年度に待機児童数が全国第2位であり、数年来、待機児童解消を目標に保育所整備を進め、昨年度国の定める定義で認定上のカウントでは待機児童0を達成した。しかし保育所の整備は進んだが、保育士の不足が重要な課題となり、保育士・保育所支援センターを開設し、保育士不足の解消の取り組みを行っている。</p> <p>今回、こうした福岡市の取り組みについて視察し、上田市の保育士不足に対する取り組みについて検証していく。</p>	

3 視察事項について

(1)待機児童解消の取り組み

福岡市は25年、待機児童数が全国第2位であった。

数年来、待機児童解消を目標に保育所整備を進めたが、人口増加もあり、整備がなかなか追いつかない。

昨年度、待機児童解消のため緊急で2,354人の定員増加による整備を進め、国の定める定義で認定上のカウントでは待機児童0を達成したが、まだ未入所児童数は1100人超えている。

(2) 保育士・保育所支援センターの取り組み

ア 背景

待機児童解消の取り組みから、保育士の不足という課題も上がり、潜在保育士(現場で働いたことがある人・保育士資格をもっているが保育士にならずに会社に勤めているような人)に保育現場に戻ってもらえるための対策として支援センターを開設し、保育士確保に取り組んでいる。

イ 特徴

ハローワークのように紹介するだけでなく、求職者と求人のマッチングを1時間くらいかけて丁寧に行い、求職者と園の要望を詳細にすり合わせることによって、保育士雇用につながるよう取り組んでいる。説明会は大規模に行くと、「質問がしづらい」ということがあるため、小規模に行い、意見交換会をしている。

また、年4回研修会を開催し、現役保育士や園長先生の発表など見学会を行うなど、必要に応じて実地研修も行い、現場から離れていた保育士でもすぐに現場に戻れるよう取り組んでいる。

処遇が悪いため、保育士になる人がいない・早期にやめてしまうという課題解決のため、処遇改善手当によって少しでも待遇改善を図るということも行った。

ウ 効果

これまでの取り組みによって保育士は着実に増えてきた。

また、内訳においても30代、40代の働き盛りの方の雇用が増えてることから、取り組みによる成果であると考えている。



福岡市と上田市では財政・人口規模・人口推移や待機児童問題などの状況が異なるため、福岡市のように支援センターを開設しての取り組みを上田市で実施することは困難とを感じるが、上田市でも保育士の不足は喫緊の課題であることから、今回視察した中で保育士不足解消への参考となることは取り入れながら、提言をしていきたい。

考 察

(まとめ:市政に活かせると思われる事項等)



視察先の写真、資料等がある場合は添付のこと